

いじめ

ライブラリ

思春期の“こころのSOS”

1

—のりこえるにはどうするか—

最近のいじめには子ども同士の悪ふざけやいたずらを越えたものがあります。もともといじめには一過性のけんかのようなからりとした感じがなく、陰湿で冷酷ですが、さらにこの頃はおどし、たかり、傷害といった非行集団によるリンチのような面が多くなってきました。

この本は、思春期の子どもをもつ親御さん、先生、それに先生になりたいと思っている大学生、さらにいまいじめを身近かに感じている若い人たちを念頭において書いたものです。

詫摩 武俊＝著

サイエンス社



ライブラリ 思春期の“こころのSOS”=1

い じ め

—のりこえるにはどうするか—

1995年12月10日©

初 版 発 行

1996年2月25日

初版第3刷発行

著 者 詫 摩 武 俊

発行者 森 平 勇 三

印刷者 林 初 彦

発行所 株式会社 サイエンス社

〒151 東京都渋谷区千駄ヶ谷1丁目3番25号

営業 ☎ (03) 5474-8500(代) 振替 00170-7-2387

編集 ☎ (03) 5474-8700(代)

FAX ☎ (03) 5474-8900

組版 ファンタシウム 印刷・製本 太洋社

《検印省略》

本書の内容を無断で複写複製することは、著作者および出版者の権利を侵害することがありますので、その場合にはあらかじめ小社あて許諾をお求め下さい。

ISBN4-7819-0786-5

PRINTED IN JAPAN

ライブラリ 思春期の“こころのSOS”

1

いじめ

—のりこえるにはどうするか—

詫摩武俊 著

サイエンス社

●ライブラリ 思春期の“こころのSOS” 刊行にあたって●

全9巻よりなる、このライブラリは永井 徹氏と相談して企画したものである。

テレビや新聞でよく報道されているように、現代の青少年を取りまく問題は多い。これらの問題について、研究を重ねている著者たちが、適切な援助的情報を提供することを目的に編まれたのが、本ライブラリである。

児童・生徒たちの毎日の生活の中で、起きていることや起こる可能性のある問題について、読者の心配や疑問に主としてQ&Aの形式で応えているのが特色である。

記述も、いま問題に直面している人（本人・親・教師・周囲の人など）にとってわかりやすいように具体的かつ現実的に書くようにした。

それぞれの問題は複雑で、また深刻であるが、その姿を少しでも解明することが、前進への力を与えてくれるのではないかと考えている。

1995年11月

詫摩 武俊

はじめに

この本は、思春期の子どもをもつ親御さん、先生、それに先生になりたいと思っている大学生、さらにいまじめを身近かに感じている若い人たちを念頭において書いたものです。

はじめはテレビ、新聞、週刊誌などで広く取り上げられています。テレビで一度、放映するとすぐに大きな反響があり、たくさんの方の投書がよせられるという事です。

最近のいじめには子ども同士の悪ふざけやいたずらを越えたものがあります。もともといじめには一過性のけんかのようなからりとした感じがなく、陰湿で冷酷ですが、さらにこの頃はおどし、たかり、傷害といった非行集団によるり

ンチのような面が多くなってきました。

● いじめの経験

一九九五年の初夏、二五〇人あまりの男女の大学生に、いじめられた経験の有無を尋ねてみました。無記名のアンケート形式です。

結果を見ると、約七割がいじめられたことがあると答えていました。その時期は中学生の頃が多く、いじめの内容は、無視された、悪口を言われた、たたかれた、持ちものをかくされた、というものから万引を強要された、寒い日に川につき落とされた、というのまでさまざまありました。なぜ自分がいじめられたのかという問いに対して、何となくとか、順番にやられた、むかつくと相手が言ったなど、はつきりと思ひあたる理由のない場合が目立っていました。この大学生たちが中学生の頃のこと、いじめがごく一般的なできごとであった様子を読みとることができます。

そのいじめがどうなったかについては、先生の指導でいじめが終わったというのが半数弱、自然に終わってしまった、が半数強でした。友人の中に心配し

てくれたり、慰めてくれた人がいるという答えはありましたが、積極的に相手に立ち向かってくれた友人がいたという記載は一つありませんでした。

自分はいじめられなかったと言う学生の中には、自分は力が強かったからというものと、自分は自分の立場を強く主張したので、いじめられそうにはなつたが、それだけで終わつたという回答がありました。自分の正当性を主張し、相手を非難する気魄の有無が、長期にわたつていじめられ、惨めな思いをするかどうかの岐路になるようです。

●なぜ、いじめが起きるのか？

この頃は外国でもいじめの事実が報告され本も出版されていますが、日本ほどには多発していないようです。

いじめは日本の社会構造とも、人間関係の伝統ともかかわる問題であるように思います。自分自身は群れたがりの傾向をもち、群れから脱落したものや群れに背を向けるものに対してこだわったり、圧迫を加える気持ちは、複数の強者がひとりの弱者をいじめることに発展します。

さらに家庭の空気が冷やかであつたり、成績のことで責められたりして、何となく満たされない気持ちがあると、自分よりさらに弱いものにこの不安定な気持ちに向けられます。いじめめる子どもという残忍とか獰猛というイメージがもたれやすいのですが、実際にはそのようなものは少なく、軽率で思慮が浅く、ひとりになると弱々しさを感じさせる子どもが多いのです。いじめめる側にもいじめられる側にも自己の弱さが底にあるように思います。

本文のQ & Aでもふれましたが、自分より幼なく、弱い立場にあるものをいじめめる心性は、卑劣で歪んだものです。それは、家庭で愛された経験が少なく、やさしい心や、相手に喜んでもらえることをする嬉しさを感じる心が発達しないでいるためではないか、というのが私の考えです。

一方、いじめられる子どもには悪いところはないと、全面的に擁護する立場があります。いじめめる子どもがなくなる日があることはもちろん望ましいのですが、子どもたちの慢性的な欲求不満は大きく、これを何かおもしろいことをして発散させようとする傾向は強まっています。スポーツをするようなつもりで、弱いものをいじめ、おもしろがっているところがあるのです。そんな状況

では、いじめられて屈辱感、絶望感、疎外感を味わわないようにするために、まず自分の正当性をはっきりと主張する勇気をもつことが大切だと思います。さらに学校という集団行動の多い場所で必要とされる基本的生活習慣を身につけておくことも求められるのではないのでしょうか。

●子どもと共感できる心が大切

いじめをなくすためにはいじめの発生しない学級の様子を知ることがよいと思います。先のアンケートでは、「私はいい先生に恵まれていたので、転校生でしたがいじめられたことがなく、クラスにいじめはありませんでした。あの時期は楽しく、その中学の友人と会うのが楽しみです」と書いた大学生の文章が印象的でした。

ただ、いじめの事例の中には多くの例に共通に認められる面も多いのですが、ひとつひとつの例が独自の面ももっています。たとえば、いじめられている子どもがそのことを親に言わないのは、思春期という年齢もあって、親と子のあいだがどこことなくしっくりしていなかったり、親が子どもに無関心であったり

するためと一般には考えられます。しかしなかには親が好きであるために、どうしても親には言えなかったという例もありました。

いじめの解決は急いで結論を求めてはなりません。思春期の子どもたちの固く閉鎖したがる心、内側に向かって発達を続けている心を理解するためには、その子どもと共感できる心が必要であると思います。

一九九五年秋

詫摩武俊

目次

はじめに 3

第一部 いじめ Q & A 13

Q 1 いじめとけんか、いじめとからかいはどう違いますか。 15

Q 2 最近のいじめの特徴にはどんなものがあるのでしょうか。 21

Q 3 いじめは実際にどれくらい起こっているのですか。またどの年代に多いのでしょうか。 26

Q 4 いじめられやすい子どもというのは、どんな特徴をもった子どもですか。 40

Q 5	いじめる子どもによく見られる特徴というものはありますか。	47
Q 6	周囲の子どもはなぜいじめを止めないのでしょうか。	54
Q 7	少数回いじめられる子どもと、いじめぬかれる子どもには、どこかに違いがあるのでしょうか。	59
Q 8	親は子どものいじめになぜ気がつかないのでしょうか。	63
Q 9	先生はなぜ児童・生徒のいじめに気がつかないのでしょうか。	70
Q 10	いじめられているとわかる徴候はありますか。	79
Q 11	いじめに気がついたらどうしたらいいのでしょうか。	90
Q 12	いじめられていると子どもに相談されたらどうすればいいですか。	100
Q 13	いじめられたために自殺することはないのでしょうか。	105
Q 14	いじめられている子どもの逃げ場はどこにあるのでしょうか。	115
Q 15	いじめを止めるために教師はどうしたらいいのでしょうか。	123
Q 16	いじめをやめさせるために親はどうすればいいのでしょうか。	129
Q 17	外部の機関に相談するのはどんなときですか。	135

- Q 18 親たちの世代にも子どもの頃にいじめはあったのでしょうか。 139
- Q 19 最近のいじめには何か社会的背景があるのでしょうか。 145
- Q 20 おとなの世界にもいじめはありますか。 152
- Q 21 いじめられた体験を自分の将来に活かすことができるでしょうか。 158

第二部 いじめ問題をどう考えるか

163

1—いじめという現象 165

弱者への攻撃

目立たなかったいじめ

いじめの表面化

いじめの定義

いじめの実情

現代のいじめの特徴

児童・生徒のいじめと学校

学校へ

の信頼の喪失

先生への不信任

2—いじめの心理 180

人を駆りたてるもの

「我慢」の習得

「いじめている」という自覚がない

「かわいそう」と思えるか

いじめを止める力

3―いじめをなくすために

188

弱いものいじめを許さない 学校ではどうするか 家庭ではどうするか
いじめの子どもをなくすために いじめられる子どもにならないために い
じめをめぐる心の問題 社会を反映する「いじめ」現象

第一部
いじめQ & A

Q 1 いじめとけんか、いじめとからかいはどう違いますか。

A

子どもは素直で明るく、いつも友だちと仲よく遊ぶものという児童観があります。また学校は楽しいところで、毎朝、子どもたちは喜んで出かけていくものだという学校観もあります。これがその通りにあてはまる子どももいますし、昔、その通りの楽しい学校生活を過ごしたという親もいますが、すべてがこの通りであるとは限りません。むしろ子どもは学校で相手と対立し、言い争い、けんかに発展することがよくあります。

●けんかとは

けんかというのは自分と相手の主張、要求、利害が相容れず、怒りの感情をもって一方が他方を攻撃し、他方がこれに応ずるか、あるいは両方が同時に攻撃し合ったときに生ずるものです。腕力が用いられることもあれば、口だけで争うこともあります。